

[illegible]

A black and white photograph showing three people in a courtyard. One person is crouching, another is leaning over them, and a third is standing nearby. A building is in the background.

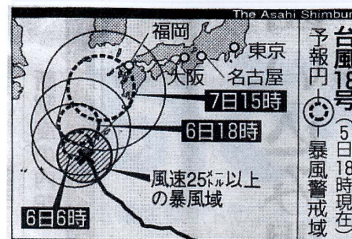
新年おめでとございます。久しぶりですがこの欄が取れました。特集に関連して復旧の一步をしるしてまいります。11月に上つて、屋根ガワラを修理しながらばとカワラを購入してまいりました。屋根に上がつてもらいました。私はハンゴのせいか怖くてだめ、専らハンゴの上がり降りで器材の運搬役を務めました。飛んだのは10数枚、5キロもあつたかという重さで、クギ留めまでされているカワラが木の葉のごとく、ゆかに恐ろしい自然の猛威で、しょうか部分的に、防水紙と桟木を取り替え、さてカワラを並べると、ずれは出来るし透き間は空しく、クギ留めで割れるし、散々てくずりました。カワラの種類は、左右端、軒先端、平、棟、異形、鬼とそれぞれが必要と見ました。屋根屋さんの修理代が高いのも、もつともかも知れませんが、

被災・防災特集

昨秋は、台風18号・21号・23号と、比較的安全と思われていた当地域にも大きな爪痕を残しました。身のすくむような新潟中越大地震も発生しました。

今回、猛烈な暴風雨で怖い思いをしたこと、見たり聞いたりしたことも含めて、記憶に止めて置きたいと思います。さらに、地域防災について

9月7日	18号	14:00	60.2m
9月29日	21号	15:51	37.1m
10月20日	23号	16:19	43.5m



いても考えていただきました。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。なお、廿日市市災害対策本部による、発生したごみの処理、ブルーシートの配布、相談窓口の設置等の被災支援は、時宜に合ったものでした。

台風18号

神本 登志江

昨年の台風18号は、私の住んでいる新港に大きな爪痕を残しました。港外は白波が荒れ狂い、港にある遊漁船ハーバーも船がきしめきあい、上空は突風が舞い狂っていました。

台風上陸時は、大潮・満潮・異常潮位と重なり、地御前海岸の堤防を乗り越えた高波は、国道2号線から電車の線路にまであふれ、まるで川のように流れました。国道と港に挟まれた、私の家の床下にも海水が入り、裏の道路にもあふれて、家の周囲一面が海のように水が引いたあとには、大きな木の根や4・5メートルの竹などが散乱していました。海岸側では瓦が飛び、床上・

床上浸水した家が多く、なかには住めなくなつて、引っ越された家もあります。水害の恐ろしさを肌で実感しました。

皆様へのお礼

神原 清次

昨年は台風が多く来て大変でした。我が家も、屋根や窓ガラスが壊れたりして、いろいろと大変でした。特にお店のテナントが枠ごと壊れて道路をふさぎ、迷惑をお掛けしました。

その際、消防団の方々と地域の皆様方に、いろいろとお世話になりました。私が元氣ならば父の助けができたのですが、父が一人で困っているところを、皆様方の暖かい助けがあり、本当に



お釈迦堂も被災

台風への備え

工 和文

九月七日にやってきた台風十八号は強烈だった。我が家が海岸近くにあるため、毎年、台風は最大の関心事である。そのため、発生した時から進路を注視している。台風が九州南部に接近し始めると、テレビの天気予報やインターネットで、進路、速度、気圧、暴風圏、強風圏などに釘付けになる。なかでも、進路と速度が一番気になる。どこを通るのか、広島湾に最も近づくのはいつ頃か、その時、広島湾は満潮なのか、干潮なのか。台風の現在位置から広島までの距離を速度で割れば、広島(湾)到達にかかる時間が判る。その時、広島湾の潮位が満潮か干潮か。干潮なら心配する必要は無い。十八号は、その淡い期待を裏切つて、満潮時に山口県萩市付近を通過した。強風で荒れ狂う海水が、堤防を破壊。怒涛のように押し寄せる海水で、前の空き地は海になり、我が家は床上浸水、加えて強風等による被害は、今までにない大きなものになった。

台風・地震などの被害に思う

重富 欣治

昨年は台風が多く襲来し、避難するにはどうしたらよいのだろうかとか、被害の後整理はどうすればいいのだろうかとの話を聞いた。また、新潟の地震被害状況のテレビを見ると心が痛む。私たちの町地御前は安全なのだろうか？

先日、神戸地震の被害を受けた方から、被害の状況とそれの取り組みについてのお話を聞く機会があった。

最初に組み合わせたのは近所(地域)の人々の安全確認。余震が来る中での避難場所の確保、食料の確保などである。その中で防災組織体制のきちんと出来ている地域ほど早く復興が出来、地域連携の弱いところが立ち遅れていた。また、このような時は行政



竹の弾力性も暴風に屈した

(市役所)は何もしてくれない。既存の防災組織はほとんど役に立たなかった。日ごろからの隣近所の付き合い(地域活動)が大切であり、そこで作られる人間関係で防災体制を作ることが生きたものとなる。このことでした。地震の専門家の言葉によれば、地御前沖には五日市・岩国を結ぶ活断層があるといわれている。

猛烈台風を体験して

田島 幸雄

昨年8、9、10月と台風が相次いで来襲し、地御前地域では河川の氾濫や堤防の決壊こそなかったが、水産施設(力キ養殖)や一般家屋に大きな被害をもたらしました。

私は台風18号の暴風の時に、向こうの家の瓦が飛ぶのを目にしていたら、向こうもこ



破壊された地御前五丁目護岸

その後、50年のキシア台風51年のルース台風で被災しましたが、防災施設が逐次整備されたことにより、それ以降は廿日市市では台風の被害はあまり出しておりません。しかし、91年の台風19号での最大瞬間風速が58・9メートル、今年の16号では観測史上最大の60・2メートルに達し、また、暴風域の拡大等台風も大型化して、これまでで

は想定できない被害が出ることも考えられます。廿日市市には、地震対策も含まれた地域防災計画の点検を行うと共に、地域住民に対する防災意識高揚の啓発を行うなど、起こるべき自然災害に対処していただき、住民の生命、財産を守っていただき、また、すよう切に要望いたします。

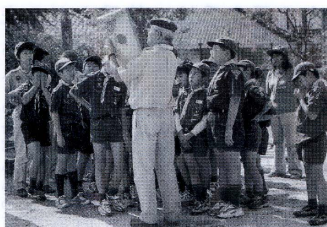
災害を考える

中下 英雄

先日、新潟県において中越地震が発生し、多くの人に対して、とても大きな被害を及ぼしました。私達が暮らす広島県においても、およそ四年前に安芸灘地震がありました。

我が家では、地震が起きたらまず火を止めて、トイレとか机の下のような、柱の多い場所に避難するように話し合っています。また、タンスとか水屋等の背の高い物に対して、転倒防止のチェーンを上部に取り付けたい。倒れて下敷きにならないのと、もし、屋根が崩れた場合でもタンス等が柱の役目をして、生き残る空間ができればと思っています。

ともあれ、地震大日本に住む私達にとつて、地震が起きないことを祈ると共に、できる対策はとつておく必要があると思います。



丸山公園でボーイスカウト活動



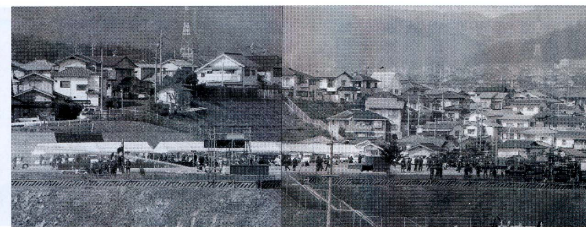
ヤブサメ装束、新調披露



手拍子揃えて供養盆踊り



地御前とんど祭り



地御前北 消防実戦応急操法大会、消防車大集結 (H16.10.17)

じごぜん短信



じとせんひろば

No.61 2005年(平成17年)7月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会



開会式、左端今田八段、その右筆者



研修風景

又、学者によれば、日本人の祖先はモンゴル人である。赤ん坊の尻の青い痣を蒙古斑というが、この痣は、モンゴル、朝鮮の一部と日本では無いと言われている。

モンゴルには肉を焼く調理法は無く、干肉にするかあるいは煮て食べる。肉を焼くのは日本人が考えた食べ方だ。日本人とモンゴル人はよく似ており、ウランバートルの町を歩くと必ず二三人は我が知り合い生き写しの「そっくりさん」と出会うのである。

★事業報告(新規)
コミュニティ倉庫新設
(体育用具・遊具等保管)

理事 林 扶夫(生活部)

理事 事各部副部長
林 扶夫(生活部)

『けん玉』交流大会
年に一度、モンゴル全国より約五百人の子供達が、ウランバートルの高原にけん玉を持って集まってくる。
広島県では日本けん玉協会広島支部長・今田八段を中心に、毎年三日間にわたりモンゴルとの交流大会に行っており、平成十六年には第十回を開催した。かつては私やけん玉日本一の、中村有美ちゃん(阿品台、現中学二年)も参加している。
現在モンゴルでは四〜五段の高段者が二十人程度おり、

モンゴルは日本に続くけん玉王国なのである。
◆モンゴルは面白い
モンゴルの人口は二百四十万人、土地は日本の四倍、海抜千六百メートルの高地にあり、夜の気温は氷点下二十度〜四十度下がる。羊は二千六百万頭おり、人口の十一倍を数える。
過去を遡れば、千二百三十六年、ジンギスカンはモンゴルを統一した後、世界制覇を目指し、ロシア、ヨーロッパを席巻し、中国を蹂躪してペトナム、カンボジアに進出した。日本にも来襲し、まさに彼は世界の脅威であった。

夜は夏でもストーブを焚く。燃料は乾いた牛の糞である。どこへ行っても白く濁った馬乳酒(アイラグ)を勧めてくれる。おいしが、つい飲み過ぎると下痢を起し、つい飲みの注意が必要である。
モンゴルには肉を焼く調理法は無く、干肉にするかあるいは煮て食べる。肉を焼くのは日本人が考えた食べ方だ。日本人とモンゴル人はよく似ており、ウランバートルの町を歩くと必ず二三人は我が知り合い生き写しの「そっくりさん」と出会うのである。

★功労者表彰
若宮 清美(公園美化)
打海由美子(元副会長)
小林 茂夫(体育部長)

★新任役員
会長 相良 宏三(三任終了)
副会長 神本登志江(三任終了)
監事 村上 五郎(三任終了)
生活部長 村上 広美
理事 事町内会長
伊藤 敏行(扇園)

理事 事各部副部長
坂井 誠野(坂井宅)
野村 達秀(緑ヶ丘)
一色 義秀(野坂)
本田 幸夫(海崎ヶ丘)
島津 雅文(自由が丘)

理事 打海 清治
(地御前商店会)
木戸八寿子
(野坂中学校PTA)
渡 正伸
(地御前小学校PTA)
枝松由美子
(保育園保護者クラブ)
林 扶夫(生活部)

廿日市 木工品昔ばなし(中)
本郷盛人
前回に続いて、けん玉の盛んなモンゴルの話を(中)として挿入しました。文中の今田八段は昨年、地御前公民館でけん玉の講師を務められました。

遠く朝鮮半島を経て日本にわたるのではないという。ジンギスカンは源義経だと言われる所以である。
モンゴルの空気は清く、夜は満天の星、宝石を散りばめた如く美しい。
子供達の遊びは、乗馬と相撲、そしてけん玉なのである。

◆遊牧民の暮らし
モンゴルの遊牧民は、テント(ゲル)に住み、水と草を求めて移住する。ゲルの生活は、電気やガスは勿論、テレビも風呂も無い。ましてやテレビや電話、時計など一切無い。トイレは野外で済ます。犬がついて来るが、そばでじっと待っており、用が済めば排泄物を食べて処理してくれる。
夜は夏でもストーブを焚く。燃料は乾いた牛の糞である。どこへ行っても白く濁った馬乳酒(アイラグ)を勧めてくれる。おいしが、つい飲み過ぎると下痢を起し、つい飲みの注意が必要である。
モンゴルには肉を焼く調理法は無く、干肉にするかあるいは煮て食べる。肉を焼くのは日本人が考えた食べ方だ。日本人とモンゴル人はよく似ており、ウランバートルの町を歩くと必ず二三人は我が知り合い生き写しの「そっくりさん」と出会うのである。

二〇〇五年度定時総会
五月十日、地御前公民館で開催

しようか？皆さんは今一人で生きているのはありません。家庭では家族の方が食事を用意し、着るものを買い又寝る場所を用意して、皆さんを大きな愛情で守っておられます。社会では皆さんが必要なものを生産し提供しています。地域では皆さんがより安全に暮らせるように、力を出し合い、お互いに助け合っています。
このように、人はお互いに助け合って生きています。このような環境の中で自由な生き方は何でしょうか？他者を認めルールを守って、自分の生きるべき道を勝ち取る事ではないでしょうか。素晴らしい生き方とは、人は素晴らしい生き方です。私は素晴らしい生き方とは、お金持ちになったり、地位の高い人になったりする事ではないと思います。人として社会に貢献できる自分を目指し、今居る場所で懸命に生きていく事こそ素晴らしい生き方だと思います。皆様もどうか限りある命を大切に素晴らしい生き方を見つけてください。
★八十二歳の私にできること
桑 豊子
七年前に町内会の役員会で、丸子山公園のトイレ清掃をシラバーさんにお頼みしてはどうかとの話が出たそうです。娘から聞いて早速、私にさせて下さいと申しまして、今年



幼児の頃

我が子の子育てを終え、今振り返って思うことは、自分が働き人様からお給料をいただけたらいいなと思ったことが一番嬉しい事です。少しでも役に立てたように我が子たちがなったのかな？
今の世の中、働かない若者が増えているという。家にあるこの樂さ、甘さがあるように。私自身、子育てで忙しい子育てではないと思っています。幼児の頃

二年生でした。ピカッと光ったときに教室を飛び出し、裏の敷へ走り出しました。ドカーンときて身体は吹っ飛ばされ、校舎からは窓ガラスが砕けごと飛び、激しい悲鳴……。そして黒い雨。そして……
八月十五日、「終戦」。戦争は終わった。大人たちは黙々と復興、実は食いのものを求め突っ走る毎日でした。先生たちは「今日からは民主主義」と意味不明のごまかし。絶対に勝つとあらゆるものに犠牲を強いた結果が、「終戦」。あの戦争は何だったのか、だれにも問うこともなく今日に至っています。
以後、朝鮮戦争、ベトナム戦争と、アメリカがかわる戦争に日本は基地となり物資も提供して協力してきました。おかげで豊かになりました。今はイラクやアフガニスタン沖に自衛隊を送っています。国内では、事故死、殺人、虐待などのニュースの毎日。死者、犠牲者が出る、まさに戦争です。
日暮れまで田んぼで三角ベイスの野球。こわいおじさんに鎌を振り上げて追い散らされ、しょんぼり帰れば、遅い帰りを待っていた母親に火吹き竹を突き出した怒鳴られたあのほろ苦い子ども時代を今の子どもたちに味わせられないものでしょうか。そこには互いの本音の通い合いがあったように思えます。

★温故知新
匿名希望
温故知新とは辞書によると、昔の事を調べきわめて今日の新しい道理を見つ出す事とあります。道理とは、これも辞書によりますと、物事の筋道、人の踏み行う事とあります。現在の社会状況の中で、果たしてそうでしょうか？行われているのでしょうか？
毎日のように新聞やテレビで、之に反するような事柄が多く報道されております。現在の学校教育の中には道徳と副読本を使った教育が行われているようです。
終戦後六十年経った今、戦前の教育を振り返って見ますと、軍国主義に片寄った教育であつた事は否定できませんが、修身という教科があり、人の道としての教育に、今より優れたものがあつたように思われます。
将来の日本を背負っていく子供を育てていくには、学校教育だけでなく地域全体で行うべきでしょう。大正初期に生を受け、苦難の人生を否応なしに歩んできた老人の思う事で、時代の流れをつくづく感じるところです。

は今年言う虐待に近いこともしてきだうに思えるし、今思えば何をイライラしていたのだらう？余裕の無い母親だったのだらう、と反省ばかりです。でもこんな母親でも子ども達にとってはたつた一人なのですね。子ども達によって母親としての自覚をさせられてきたように思います。
ある時、私が事故にあい、救急車で運ばれたことがありました。病院へ駆けつけてくれた我が娘が発した第一声が「母さん、生きていてくれて良かった。」この言葉は私にとって一生忘れることの出来ない一言になりました。
こんな母親でも必要としてくれる。ほんとうに嬉しかったです。心配かけて申し訳ないと思ひました。
子ども達に命の尊さ、又その命をリレーしていく事、つかつかで欲しいと思ひます。
今、少子化で未来がある意味暗く少子化ですが、一人では子育ては出来ません。一歩外に出れば多くの方のお世話になるというのを頭において一緒に育つていけばいいのではないのでしょうか。がんばれ！若者達！
★ものは豊かに
村岡 克彦
米軍の原子爆弾爆撃の日、わたしは五日市観音国民学校

互いの本音の通い合いがあったように思えます。
大人のウソはいけません。子どもが真似ます、学びます。
★温故知新
匿名希望
温故知新とは辞書によると、昔の事を調べきわめて今日の新しい道理を見つ出す事とあります。道理とは、これも辞書によりますと、物事の筋道、人の踏み行う事とあります。現在の社会状況の中で、果たしてそうでしょうか？行われているのでしょうか？
毎日のように新聞やテレビで、之に反するような事柄が多く報道されております。現在の学校教育の中には道徳と副読本を使った教育が行われているようです。
終戦後六十年経った今、戦前の教育を振り返って見ますと、軍国主義に片寄った教育であつた事は否定できませんが、修身という教科があり、人の道としての教育に、今より優れたものがあつたように思われます。
将来の日本を背負っていく子供を育てていくには、学校教育だけでなく地域全体で行うべきでしょう。大正初期に生を受け、苦難の人生を否応なしに歩んできた老人の思う事で、時代の流れをつくづく感じるところです。

★功労者表彰
若宮 清美(公園美化)
打海由美子(元副会長)
小林 茂夫(体育部長)

★新任役員
会長 相良 宏三(三任終了)
副会長 神本登志江(三任終了)
監事 村上 五郎(三任終了)
生活部長 村上 広美
理事 事町内会長
伊藤 敏行(扇園)

理事 事各部副部長
坂井 誠野(坂井宅)
野村 達秀(緑ヶ丘)
一色 義秀(野坂)
本田 幸夫(海崎ヶ丘)
島津 雅文(自由が丘)

理事 打海 清治
(地御前商店会)
木戸八寿子
(野坂中学校PTA)
渡 正伸
(地御前小学校PTA)
枝松由美子
(保育園保護者クラブ)
林 扶夫(生活部)

新町内会長さんです よろしく

地御前地区の町内会長は、二十九名中十三名が交代されました。地域の皆様にかかわりの大きい、新町内会長をご紹介します。

◆扇町町内会長

伊藤 敏行
扇町町内会が発足して二十六年を迎えた。当時、副会長としてお手伝いをしてきた経験があります。今度、会長に就任し、改めて町内を見渡し感じ、改めて当初とはまるで様変わり。一段と高齢化が進み、町内活動にも問題が多く、コミュニティの大切さを実感。原点に戻り、助け合い、親切をモットーに万事進めていきたいと思っています。

◆金剛寺西町内会長

北山 修司
始めまして、私は五十二才で漁業自営をしています。美しい世界遺産の宮島を背景に、タコ、アナゴ、アサリ等々を採っています。

金剛寺に住んで、ちょうど三十年、長く住んでる割には、町内の事が解っていないなあ、と初めて思いました。町内の皆さんの協力を得て、夫婦で頑張っていこうと思います。よろしくをお願いします。

◆丸子町町内会長

千原 保仁
町内会長を引き受け、公民館との関わりが多いことから、公民館とは？関心を持ち調べてみると、社会教育法の中に公民館の目的などが規定されていました。公民館は地域に密着したものだ認識するとともに、地域の人がたが公民館を文化福祉、安全などの活動拠点として活用されていることも知り、私は、地域住民の一人として公民館との関わりを大切に、町内会を運営していきたいと思っています。

◆北之町町内会長

掛本 靖雄
私が、このたび町内会長としての役割を努めあげたため、三つの事を心掛けて行きたいと思っています。

一、地域での挨拶運動
誰とでも声掛け合って明るい町作り。

二、助け合い運動
困った時にはおたがいさまで協力し合う。

三、思いやりのある心のつながり
昔、言われていた言葉「向こう三軒両隣」の心を大事にして行こう。行き届かない事もあると思いますが、よろしくお願ひ致します。

◆中之町町内会長

大田 敏彦
この度、町内会長という大役を任せられ大変な事になっ

たなあ、自分出来るだろうかと不安で一杯でした。今迄地域の事など無関心で、毎日他人事のように過ごしてきました。

中之町町内会、世帯数が少ない分まとまりがあり、皆さ思ひやりを持って接して下さり、わからない事などは丁寧に御指導して頂き大変有り難く思っています。

◆南町町内会長

花田 英利
資産家で良識豊かな御長老、人徳溢れ統治力旺盛な人、そんな町内会長の人物像が浮んで来ました。この影を自分に当てはめてみて、この役職は適しているのだろうか、と自問してみたら、言わずと失格である。しかし今の時代そんな事を考えたらこの役の受け手がなくなる。多くの方々が、そんな思いを持ちながらこの役を全うされてきた。今度は自分がそれに對し、幾ばくかの返しをする番だとの考えに至りました。

◆砂島町内会長

住川 洋一郎
町内会長はなにもぶんにも初めてで、いささか荷が重いのですが、諸先輩に教えを乞い、私なりに精いっぱい努めさせていただきます。

砂島も新しい家が増え、若い人や子供さん達が多くなり

若い人たちに伝えたい

この八月に戦後六十年を迎えますが、時代の潮流は必ずしも良い方向に向かうとはしていません。私たちの青少年時代を振り返って、次世代をになう若い人や子どもたちに伝えておきたいこと、望みたいことなどを、寄稿していただきます。

お断り！原稿多数のため二名の方は次号繰越とさせていただきます。一報告してお詫びいたします。

★二十一世紀の戦争

懸 和 男

戦後六十年といっても、横井さん、小野田さんが戦後三十経って生存が確認され日中が感動したのも記憶に新しい。最近未確認ではあるが、旧日本兵が生きているのでは？とのニュースが流れてきた。悲惨な戦争により日本人はもとより一家族にとって人生が大きく変わったといっても過言ではない。

今日の日本は戦争こそ無いが、外に出ると交通戦争、公園でも幼い子供、孫達が安心して遊べない。家にいても常



山の手の日赤看護大学

ける生活。学校に行っても変質者が入って来る。大切な子供達を守るため、学校関係者の方も

神経をピリピリされているのは……。
我々が幼少の頃はまだ食料不足で、麦ご飯、芋ご飯は当たり前、おかずは勿論、海の幸、魚釣り、カニ取り、貝掘りその他もろもろ。山でのかっぱん取り、ずばな、野いちご。これは今言うおやつ。コッパさで、これは風呂焚きやご飯炊きに使う。これらはりっぱな子供達の仕事、当たり前前の事だったので苦にならない。

◆昔の子ども
子ども時代と言えは約六十年前の終戦ごろの、十歳ごろ思い出されます。
現在のようには多種多様なおもちゃが店先に並んでいる風景ではなく、積み木・ままごと道具・お人形程度だったように思います。戦争の影響もあったので、タコ・子供用自転車などは地御前で数えるほどだったでしょう。
子どもたちは自分たちで工夫しておもちゃを作っていました。もちろん大人も生活用具やおもちゃを手作りました。竹や木が材料になることが多く、ノコ・カマ・ナタ・小刀・キリなどの工具が扱える子どもが、多くのおもちゃを持つ条件でした。

ました。明るく元気な町内会にしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

◆三景園町内会長

三好 国昭
私達の町も御多聞にもれず高齢化が進んでいます。町内会長に推された私も高齢者の一人です。したがって活動的な行動は出来ません。

町内の皆様の智恵と力に頼って仕事をさせて貰うことで、これが私の思っていることです。お互いが協力し、居心地のよい町づくりをめざすつもりで、つくりと歩んでいくつもりです。

◆野坂住宅町内会長

坂井 誠
町内のコミュニケーションの和を広め、町内会が少したいていと思っています。皆様よろしくお願ひいたします。

◆緑ヶ丘町内会長

野村 達吉
平成十八年三月まで町内会長を務めさせて頂きました。町内会、地域の皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願ひします。

◆又、同期間、地御前北二丁目集会所の管理も担当しています。

海晴ヶ丘、三景園、緑ヶ丘の皆さん、地域の親睦や活性化のため大いに集会所を活用されるよう願っています。

◆野坂町内会長

一色 義秀
先日は、地御前地区運動会が催され見事に優勝しました。

竹が主な材料のおもちゃを思い出しても、竹の棒一本が刀・鉄砲・槍などの戦争ごっこに武器になります。杉鉄砲・紙鉄砲・水鉄砲・打ちコマ・鳴きコマ・竹馬・スキ板とストック・釣り竿などなどです。
大人は竹槍・火消し竿（竹竿の先に荒縄を数十本くくりつけて火をたき消そうとする米軍の焼夷弾対策道具）を全所帯に用意しましたが、両方とも地御前では役立ったという話は聞いていません。
将来、竹が武器になることは無いでしょうが、武器がおもちゃにならない世界（ゲリラ軍の少年兵など）も来てほしいものです。

★地御前史跡めぐりから

中田 和子

私が地御前に住んで十五年。三人の子どもの子育てと共に、地域の方々との関わりも増え、助けていたなきながら、楽しく過ごしています。海がない町、雪が滅多に積もらない町で育った私は、地御前という土地が、子育てにはすばらしいと愛着を感じています。

ふきのとうやつくし、筍、びわや柿、地御前小学校の大イチヨウ木が銀杏をいたたいたり、自然の恵みを肌で感じられる楽しさを子どもと共有してきました。子どもが成長し、小学校に行くと、「小林

私にとって忘れられない日になりました。選手並びに熱々な応援をさせて頂いた方々お疲れ様でした。微力ではあります、町内会の皆様のご協力を頂きながら住み良い町造りを推進したいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

◆海晴ヶ丘町内会長

本田 幸夫

皆様こんにちは、今年から二年間会長を引き受けることになりました。皆様の御指導と御協力をお願いして頑張りたいと思っています。

◆自由が丘町内会長

島津 雅文

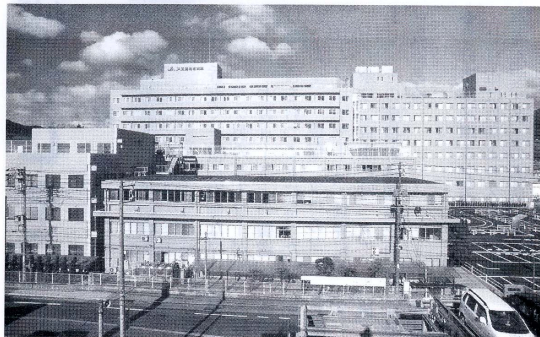
自由が丘団地の町内会長は原則一年ごとの当番制です。早二ヶ月、地御前地区コミュニティの活動と、その中における我団地の存在意義は町内会長を経験しなければわかりません。小団地において全帯が町内会長を経験できることは、当番制の利点であることと、実感しています。地御前地区において団地の歴史を造っていくバトンリレーのためにご協力をお願いします。

千古「御陵衣祭」「管絃祭」などに関係ある地域の人やお祭りの意味などを知る様になり、お話を聞く機会も増えました。
その頃、公民館企画運営委員をさせて頂いたことも知らず、子どもたちにもまだ知らない地御前を知って欲しい。と「ウオークラリー」を始めました。被爆したハゼの木、オロチ退治の八面社、地御前神社の鳥居は海の中、など歴史や興味深いお話を聞きながら歩いた地御前を、子ども達はどうな風に見て感じてくれたでしょうか。被爆地広島にいたが、戦争を知らない私たちが子どもたちにも、身近な伝統や自然を受け継いで行ってもらいたいと思います。
★素晴らしい生き方
野村 洋一
やがて大人の仲間入りをする皆様には是非気づいてほしいことは、自分が生きていく事は素晴らしいという事です。人は皆この世に生を受けてから、時間の差はあるが平等に死を迎えます。この限りある人生を大切に生き抜いてほしい。この世に生命を授かった以上、人として素晴らしい生き方を見つけてほしい。
遊びは楽しい。しかし遊びだけで良いのでしょうか？自分だけが楽しければ良いのでしょうか？真の自由とは何で



じとぜんひろば

No.62 2006年(平成18年)1月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会



JA広島総合病院は、二〇〇五年十二月で開設して以来五十八年となりました。地域の皆様のご支援によるものと感謝申し上げます。

新年おめでとうございませう

JA広島総合病院のご紹介

事務局長 木原 繁 義

地域の二次救急医療、高度専門医療を担う一般病床五七〇床の急性期病院です。認定 指定については二次救急病院、災害拠点病院、地域医療支援病院があります。

救急医療の対応については、最初に「かかりつけ医」となる医院、クリニックに受診していただき、精密検査、手術等が必要と判断された時に当院への紹介となりますので、時間外に直接来院されても診察できない場合もあります。(紹介状を持参して下さい)

また、二〇〇四年の台風十八号が通過した時は、午後一時から四時間で二十九台の救急車が来院し、患者さんの診察を行いました。昼間の台風であつたため診察ができました。

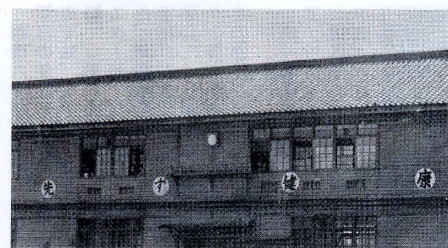


へ逆紹介させていただきます。災害拠点病院とは、地域で大規模災害が発生した時、対応する病院です。

年の救急対応が集中したことがありましたが、当院体制では対応できなかったため、病院長、医師、看護師、技術職他が自発的に病院に残って対応しました。

医療提供が地域で完結できるように地域医療を連携して、良質な医療を提供するために職員一人ひとりが努力していきます。

時代に身体を鍛えてもらったお陰だと感謝しております。最近、子供の体力低下のことを聞くたびに、又、五十年代



す。長い距離を走るには、力の配分を考えなければならぬことを知った非常にいい経験でした。

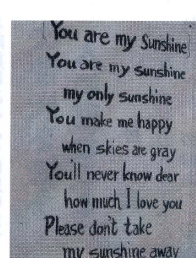
戦時下の中学生

中村 英 生

私の青少年時代は、小学生のときに日中戦争が始まり、中学生(旧制)のときに太平

洋戦争が、そして、まだ学生時代が終わらないままに終戦の年を迎えました。そう、戦争に明け暮れた時を過ごしたということです。

ことがあります。「おーい」と呼ぶ声がして、七、八十メートルも離れたところから鉄砲をかついだ兵隊が走ってきた。



地に配属されていましたが、何とか助かりました。一昨年、鹿児島県知覧の元特攻基地を訪ねて来ました。

木工品昔ばなし(下)

本郷盛人

最終回ですが、木工品ヨーヨーと地元のスポーツのお話を添えていただきました。

◆ハイパーヨーヨーの

ルーツは廿日市である
昭和三十五年五月、米國フロリダにあったダンカン社の専務ラッセル・ダンカン氏が私の会社(株本郷)に来訪された。コカ・コーラの宣伝用プレミアムとして、木製ヨーヨーを制作してほしい、とのことであった。そのヨーヨーは、それまであったヨーヨーとは構造が異なり、糸が中心に固定されず、糸と本体が空回りし、しかも少し引く張るの上に上がってくる、という画期的な物であった。現在ではごく一般的になったが、この方式のヨーヨーを日本で初めて作ったのは我社である。早速製造に取り掛かり、タイ、マレーシア、アメリカその他、多くの国に輸出した。以来、六年間に約八百五十万個をコカ・コーラのプレミアムとして製造し、また昭和四十一年、飲料水森永コーラスのプレミアムとして約五万個を納入した。ところが、間

◆廿日市はスポーツ王国

廿日市は以前よりスポーツが盛んで、多くの名選手を輩出した。まず郷土の誇りとして、石津光恵さんがおられます。石津さんは山中高女を卒業され



◆廿日市の野球
廿日市での野球は明治三十七年にはすでに行われていた。明治三十七年六月二十七日の芸備日日新聞によりみると、廿日市小学校高等科の生徒と、広島師範学校が試合し、二十六対二十四で廿日市小学校が勝ったと報じています。廿日市小学校は、大正十五年、昭和四年、同五年に県大会で優勝しており、昭和四年



は立派な野球場があり、大正七年にアメリカから帰国された野村一作氏の指導により笹尾野球場が完成された。野球場には大毎野球団や、はるばるカナダからもチームがやって来ましたが、大正十三年には巨人軍対広友の試合が

若い人たちへ伝えたい2

前号で戦後六十一年の特集を行いました。一部の方が繰り越しとなりました。今回、新たな原稿も加えた三編を、第二集として掲載します。

東京大空襲

七 字 寛 重

昭和二十年三月十日、私は

小学生で、東京から四十キロ離れた神奈川県南部の町に住んでいました。あの夜、空襲警報のサイレンの音に、緊張して防空壕に

三平和子と山下市長講演会

戦後六十年、被爆六十一年の節目の年を迎えた夏、廿日市市では、「平和を祈念する黙祷」「平和美術展」「平和ボスター展」などが行われました。地御前公民館でも「ミニ平和コンサート」&山下市長講演会「サダコと折り鶴ボスター展」がありましたので、この模様をレポートしました。

◆第一部のコンサートは、

ピアノ山ノ子、ヴォーカル大岡峯明のお二人で全十一曲を演奏され、トトロのブル



ースでは、ピアノと歌の押したり引いたり息の合った競演で、迫力満点でした。最終曲の「さくらさくら」は参加者全員の合唱となり、平和をたたえるのにふさわしい催しとなりました。市長さんも観賞されました。



山下市長は、五月にニューヨークの国連本部で開かれたNPT(核不拡散条約)再検討会議に、「日本非核宣言自治体」の副会長として参加されました。会議では被爆市長(中学生のとき、勤労動員先の工場内で被爆)として、その体験を含めた講演を行い、核廃絶の重要性を強調し、その後に行われた行進集会では、参加したアメリカの人々との意見交換も行ったそうです。今回は、この会議や集会の様などに於いてスライドと共に熱心に説明されました。

避難しましたが、私達には何事も起こりませんでした。防空壕の外に出てみると、夜空はB29の大編隊が北に向かって飛んでいました。やがて北の空が赤く染まり、その色は真赤に変わって北の空一面に広がって行きました。東京がやられたのだと直感しましたが、大惨事が起きているとは全く思いませんでした。



後の記録によれば、飛来したB29は三百機、被害は東京の下町一帯で、死者十万人、東京の約四分の一が見渡す限りの焦土となりました。僅か二時間半の空襲で原爆に匹敵する被害です。米軍は、まず攻撃目標地域の周囲を焼夷弾で炎上させて炎の壁を作り、住民が逃げ出せないように囲った後、その中に焼夷弾の雨を降らせました。住民は逃げ場を失い、十万人が生きたまま焼死されたのです。身の

次世代を担う人々を望むこと

林 武二

毛がよたつような大虐殺です。本来、国際法では戦争と言えども一般住民を殺傷する事は禁じられている筈ですが、全く無視されているのです。広島、長崎でも同様です。これが戦争と言うものなのでしょう。最近、憲法を改正して同盟国が戦争をする時、日本もその戦争に参加できるようにしようとする動きが活発です。国民の一人一人が、日本の国がどうあるべきか真剣に考える時期にあるように思います。

私は、南米のペルーで生まれましたが、事情あって五歳の時に親と別れ、地御前の祖母の元で暮らしました。それまでスペイン語で暮らしていたのが、日本に帰ってから日本語になったので、日本語は皆より五年おくれで、日本語は今でも、何やかやが五年遅れていると思っています。今の仲間入りができました。当時の履物は、ゴム靴でしたが、これが非常に便利のいいもので、素足に履いているのでそのまま川や海に入って遊べる水陸両用でした。学校では、

冬でも素足でしたが、特別冷たいとも思わず怪我をすることはありませんでした。朝礼の時のラジオ体操は、先生の指導も適切で、体全体をつかって曲げることはよく曲げ、伸びずところはよく伸び、きちんと体操らしくしたものです。最近のラジオ体操を見ると、手先だけがブラブラ動いているようで、あれでは体操をしている意味がないように思えます。寒い時には教室の前の廊下で、レスリングまがいの「ウズ」をして遊びました。相手の痛がることを改めて「降参」と言うまで戦います。体は温もるし、体力、筋力は鍛えられるし、廊下はいつも綺麗になっていた頃に、少し高学年になった頃に、休憩時間は全員外に出て遊ぶことになりました。ウズは出来なくなりましたが、馬のりなどの遊びをしました。昼の休憩時間には、ドッチボールや、名前は記憶していませんが、多人数で遊ぶゲーム等で、運動場を走り回って汗をいっぱいかきながら遊んでいました。一日の授業が終われば、教室とその前の廊下の雑巾がけですが、四つん這いになって雑巾を押して走っていきます。これが足腰の鍛錬に非常に役立ったと思っています。また、冬の寒の時期になりますと、校外に出て学年ごとに走りま

あり、十七対四で巨人軍が勝っています。この他門鉄、広鉄、広島専売局(元廿日市町長の豊田正夫氏が投手)、一聯隊等も来るほどとても盛んでした。

野球選手では、昭和四、五年、甲子園で連続優勝した広島商業の灰山元治さんや八林さんが有名ですが、忘れてならないのが、地御前の梶上初一氏です。広島が第十回(大正十三年)夏の全国大会で優勝した時の選手で、有名な話として、監督石本秀一氏が日本刀の刃渡りをさせたのが、この梶上さん達のチームだったのです。その後、梶上氏は慶應大学に進み、一番打者の主将として俊足巧打で神宮の森を大いに湧かし、オールドファンにとっては忘れ得ない人でありましたが残念ながら支那事変で戦死されました。



じとせんひろば

No.63 2006年(平成18年)7月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会

最初にお断りしておきますが、これから私が書く六十一年前に地御前で起こった出来事は全て実話に基づいたものでフィクションではありません。ただ関係者の一人が死亡しており、その人に関する箇所は



昨夏二回にわたり地御前公民館で、「広島と地御前の太平洋戦争」と題して講話が行われました。戦争を語り継いで平和の大切さを伝えたいと思います。今回の原稿は講師がすべて書き改めたものです。

やむをえず創作しましたので、そこが事実と多少違うかも知れません。その朝、満員の列車が山陽本線の宮島口を出発して広島方面に向かって走っていました。ところが地御前に近づくと

自分を犠牲にして列車を守った 集戦機関の将校(上) 歴史研究家 森 重昭

四十年間の教師生活を終え、地御前公民館に勤めるようになった事を、大変うれしく思っています。地御前地域は、私が阿品台中学校に勤務していた時代の生徒が今、小学校・中学校の保護者であり、また、そのお父様・お母様が地域で活躍されているというこ



地御前公民館長

平松 和枝

とは大変懐かし、公民館をご理解いただけることと楽しみにしています。

地域に根ざした公民館に

◆緑ヶ丘町内会長 谷本 義一
この度、町内会独自の輪番制によって、町内会長を担当することとなりました。早二ヶ月、先日は地区の運動会行事に参加し、立場上いろいろと経験しました。そしてコミュニティ活動の大切さを実感した次第です。私自身、高齢のため活動的な行動は出来ませんが、町内会と地域の皆様のつながりを深めるよう頑張ります。よろしく願います。

◆新港町内会長 池田 道正
町内会長というお役目は初めての事でして、全く何もわからないので、先輩の皆様方から助けて頂きながら、前に進んでいる最中でございます。私にとって初めての行事として地御前地区運動会があり、大変忙しかつたのですが、色々な方々にお会いして楽しむことが出来ました。今後ともよろしく願います。

パソコン等で遊ぶことから始める。既に集会所周りの広場をランドゴルフに利用している。より広い地域の、より多くの人の楽しい交流を図るための出合いの場になる夢を見ている。



ニッコウキスゲ

☆花と香り

桃山/石川 益弘

観光パンフレットにアカシヤ並木路の街大連とある。そのヨーロッパ的エキゾチックな街大連で生まれ、九歳まで過ごして錦州に移り住んだ。中学生時代、アレキサンダー・ニコニコフ(父は帝政ロシア軍将校)と中国人王景榮が同級生にいた。ある日、先生がヒヤシンスの鉢植えを持ってこられた。初めて見るその美しさと香りにとりこになった。この香りは自然が創り出す神からの贈り物と思う。戦後帰国。夢も希望も食料もない時代、何処からともなく漂ってくる爽やかなキンモクセイ・チンチヨウゲ・クチナシ等の香りに慰められた。

アレキサンダー君は、不可侵条約を破り南進して来たソ連軍に追われ、再び流浪の末オーストラリアに在住、王景榮君は国府軍に参加、共産軍に追われ台湾に逃れた。歴史に翻弄された我等中学校でした。

☆私の好きな花の絵

海晴丘/鎌田 勲

何時の頃か中川一政の薔薇と向日葵の絵をすばらしいと思うようになった。たしか以前は尾形光琳の紅白梅図や林武の薔薇の絵にすぐひき付けられていたはずだが、中川一政は八十歳をすぎた、この頃やつと苦しまなくても絵が描けるようになったと述懐している。事実八十歳代半ばから九十歳代の半ばまでの作品(実はこの間だけで数百点の薔薇や向日葵が描かれたそうだが)に心を惹かれる。その頃の絵のすばらしさを言い表すには、氏の画文集の一節、画はすべて抽象である。抽象がエッセンスだ。それを越えて説明になるからおかしくなる。描けば描くほどつまらなくなる。新鮮ということに言葉がみつからない。幸いなことは、この充実期の作品が、近くではウッドワン美術館や、蘭涛閣美術館に数点収蔵されていることです。

☆自然のささやき

丸子町/太治シゲ子

公園の一角に、今年は四本の桜が今までになく花ざかりを見せしてくれた。一本のソメイヨシノが、根をむつくりと地上に出し、小さな芽を2本つけたので、切り離して植えてみた。大事に育てて今では三メートルあまりに成長した。今年は親子が競い合うように桜花が春風に舞い、もう一本の大島桜と共にその風情は、自然の絶景と感じられた。桜の季節も終わり、年々に成長したハナミズキが、美しい姿で花の色も鮮やかさを増して来た。

春の陽に木々の新緑が映え、美しいドラマを展開した。子どもたちのはしゃぎ、語らい、笑い声が聞こえる。自然の豊かなふれあいに感動し、人間としての道を。大自然に求め花に求め、学んでいけたらと思う。

☆大自然のひとりと

港町/奥野 法保

幼少の頃は水の野流と戯れたり、山の中を駆け巡って木々の成長と共に過ごしてきた。山道を登りつめると、山の香りを一杯に吸った身体から魂が抜けるような快感を覚えさせてくれる。山路きて何やらゆかしすみ

と狂ったように列車はスピードを上げ始め、トンネルの中で急停車しました。乗客は何も知らされないまま不安なひとときを過ごしましたが、間もなく列車は何事もなかったかのように再び動き出し、無事広島駅に到着しました。この列車に乗っていた一人が一九九〇年頃、私に話してくれた出来事です。そういえば、太平洋戦争末期に山陰の鳥取で列車が米軍機に襲われ多数の死傷者が出た事件がありました。現場には慰霊碑が建てられています。この列車襲撃事件は他人事ではありませんでした。地御前でも同様の事が、まさに起こるころでした。それを未然に防いだのがこれから述べる将校であったと私は思います。ときは昭和二十年三月十九日の朝、そこは地御前国民学校から宮島の長浜沖の上空です。空中戦がありました。最初にこの話を私にして下さいましたのは、昭和十九年四月から昭和二十年三月までの地御前国民学校の訓導(今の教諭)をされていた岩原英二郎先生です。先生の家は己斐の素封家で、私の母と先生のお母様は昵懇であつたため私は先生の家をよく訪れていました。その折、宮島上空の空中戦の話が先生が私にされたのです。戦闘中、二中の教頭中谷春司先生宅に爆弾が落ち、五

れ草

この一句で当時の情景が鮮明に思い出される。私自身の癒しの句でもある。まるでやがた心を育ててくれた山道は、今は道なき道となつている。故郷を離れて行く人々に、このころ淋しくなつたのお、そのうちわしの懐に帰って来てくれることだろう。」と大自然のやさしさ、この言葉を掛けていようと思う。

さて、この四月から子どもの安全見守り協力員として学童に接する機会を得た。登下校の挨拶はまだたどたどしいが、言葉のキャッチボールのなかで可愛らしい返事がかえってくる。このままの可愛い芽をなんとかして伸ばしてやりたいと思うようになった。IT化時代の世の中を剛とすれば心のやさしさは柔である。柔能く剛を制するよう



に活動の時代をただ突き進み、一方心のやさしさを持った人になつてくれるのか、将来に興味津々である。

二〇〇六年度定時総会

五月九日地御前公民館で開催
★功労者表彰
横山 裕幸(体育部副部長)
塚迫たか子(元青少年部長)
★新任役員
顧問 平松 和江
理事(町内会長) 藤原 千富(扇園)

理事(町内会長) 藤原 千富(扇園)
理事 児玉 秀基(金剛寺東)

理事 吉田 弘章(要町)
理事 林 忠正(堀中町)

理事 村上 泰邦(堀之町)
理事 川口 博正(鹿之子)

理事 戸川 春義(田屋)
理事 池田 道正(新港)

理事 倉橋 和子
理事(エスティム地御前)

理事 谷本 義一(緑ヶ丘)
理事 梅野 正純(自由が丘)

理事 小山 貢
理事(地御前長寿連合会)

理事 石津 直子
理事(野坂中学校PTA)

理事 世田 百恵
理事(保育園保護者クラブ)

理事 木戸八寿子(青少年部)



人も家族が亡くなった話もされました。私はその現場に行き見た人の話を聞きました。一機の零戦（本当は隼だったのですが、見ていた人は全負が零戦と言いました）がグラマン戦闘機の編隊の真只中に、鬼神のごとく突っ込んでいったということです。慌てて、飛び散るように四方に逃げたグラマンも、日本軍の戦闘機



南町・中谷家の爆弾あと

民を送り、当時「アメリカ村」と呼ばれていた地御前が、まさか米軍に攻撃されるとは夢にも思わなかったからです。この事件を契機として、地御前の人々は本気で防空壕を造り始めました。地御前国民学校に降りそそいだ葉きょうは、生徒や当時学校に駐屯していた兵隊が拾い集め、時をうさず来校した憲兵に全部渡されたと。葉きょうは米軍機と日本機の機関銃の弾の空けさで真ちゅうで出来ており、上空から落ちてきた葉きょうに当たれば幼い児童は即死するほど危険な物です。校庭にいた先生は皆声を張り上げて、生徒に教室に入るように命じました。幸い生徒には当たらず無事でした。

中谷家を訪れると、中谷雪枝さんは健在でした。爆弾で重傷を負い、耳の鼓膜が両方とも破れ、身体中に爆弾の破片が食い込んだ女性でした。手の指が三本も吹っ飛んでしまったそうです。見るも無残なその傷痕は洋服を着物を着れば、家族五人は分かります。が、家族五人は殺された心の傷痕は永遠に癒されることにはないでしょう。雪枝さんの話は衝撃的でした。米軍機の爆弾によって、元広島大学教授中谷喜一郎先生の実家、当時二中の教頭中谷春司家は吹っ飛び、中谷トミ（八十二）、郁子（十六）、敦子（十四）、恭子（七）、三千枝（二）さんの五人が即死した話をされました。

地御前上空で空中戦が始まりました。地上では恐ろしいのあまり家の中に避難した人々も気になると家から出て上空を見上げると、敵と味方の戦闘機がすさまじい機関銃の音をさせながら空中戦を行っていました。地御前上空で空中戦が始まりました。地上では恐ろしいのあまり家の中に避難した人々も気になると家から出て上空を見上げると、敵と味方の戦闘機がすさまじい機関銃の音をさせながら空中戦を行っていました。

戦況が正面衝突するほど近づいた途端、一機が急上昇し、他の一機が煙を吐きながら海中に落ちていきました。見ていた地御前国民学校の生徒や付近の住民は一斉に手を叩きました。落ちたのは敵ではなく味方の方の戦闘機でした。この戦闘機は、宮島の長浜にある宮島国民学校の前の海に真っ逆様に落ち、終戦後まで海中にあったことが確認されています。

奇しくも、中谷家と搭乗員の六名はその後、相前後して地御前の野火葬場、茶毘に付され、五つの遺骨は傷心の遺族のもとへ返され、もう一つの遺骨は駆けつけた軍の関係者に渡されました。日本軍の戦闘機に乗っていた搭乗者を助けようとして、阿品さわら浜の漁師が船で助けに行きましたが、現場に到着した時はすでに死亡していました。襟の階級を見ると大尉、将校でした。遺体は現場でパラシュートに包まれ、地御前の西向寺に運ばれてきました。当時、西向寺には五十人の兵隊が駐屯していましたが、その兵隊達が見守る中、西向寺住職の説教が静かな境内に流れました。兵隊たちも次々と焼香し戦死した将校の冥福を祈りました。当時、この事件は小さく新聞に載ったのですが、味方の損害は勿論、将校の名前も伏

(以下次回)

新町内会をようこそ

二十九名中、十四名の方が交代されました。地域の皆様にかかわりの大きい、新町内会長をご紹介します。

◆扇園町内会長

藤原 千 富

扇園は一班一五班まで一七七軒が暮らしている小さな団地です。毎年、班長が順番に会長を務める規約になっており、今年が当たり年というわけです。（宝くじは当たりませんが…）



ただ、歴代会長の足跡を逸脱し

子供会以来、無縁になっていた町内会です。一年間勉強のつもりで頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

◆金剛寺東町内会長

児玉 秀 基

当町内会は、地御前地区では最も東に位置し、市営金剛寺墓地辺りから御手洗川まで、沖合は二号線辺りまでを範囲とし、約百世帯の町内会です。皆様の助言、協力を得ながら、住みよい町内にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

◆要町町内会長

大原 弘 章

当町内会長職は、申し合わせにより任期二年、各班持ち回りが慣例となっており、今回は私がその職に推されたということで、特別これと言った抱負も気概もありません。

ただ、歴代会長の足跡を逸脱し

宮島の長浜前の海

ない様、肅々と務め上げる所存です。これまで皆様との関わりが薄かった私が、大任を果たすには皆様方のご協力がぜひ必要です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆胡町町内会長

吉田 清

青葉が美しい明るい季節となりました。この度、責任の重い町内会長という役を引き受けることになりました。未熟な者ですが、人との和を大切に頑張っていきたいと思っております。皆様よろしくお願いたします。

◆堀中町町内会長

林 忠 正

当町内会は、バイパスを挟む一角で、戸数は、二十年ほど前にできた十八戸の団地を含め四十一戸です。副会長としての三年の経験を生かして、横の繋がりを充実させていきます。そのためには、会社勤めはありますが、班長さんと連携して、皆さんが気軽に声を掛け合っているようにし、諸行事を通じて懇親、助け合いを図っていきます。

◆後町町内会長

梶 上 邦 武

この度、今期の町内会長の

役職を務めさせて戴くことになりました。皆様の指導ご協力をお願いして、頑張っております。町内も高齢化が進み、コミュニティの大切さを実感しております。お互いに助け合い、居心地のよい明るい町作りに、少しでもお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

◆鹿の子町内会長

川口 博 正

地御前の住民になって二十数年になりますが、夜だけの住民だったため、町内の事は任せてききで全く判らないことばかりです。地域の方々と協力し、明るく楽しい町内に役立ちたいと思っております。宜しくお願いいたします。

◆自由が丘町内会長

梅野 正 純

私どもの町内会は平成十二年に発足し、現在の世帯数は三十五戸です。最初の大仕事であった地区運動会も、諸先輩方のご指導により何とか役目を果たすことが出来ました。任期中は夫婦共々

精一杯頑張ります。地御前地区の皆様宜しくお願いいたします。

◆堀之町町内会長

瀬良 泰 邦

三代続けば江戸っ子と言われますが、私は生粋の地御前っ子とさせていただきます。子供のころ、車えびや手長だこを採ったり、貝掘りに興じた地御前の海岸が、地域の皆様の努力により、少しずつ奇麗になっていく事を嬉しく思っているところです。

私も地域活性化のために、微力ながらお手伝いしたいと思っております。しかし、なにぶんにも全く初めての仕事のため、判らないことが多く、右往左往している今日この頃です。今後ともよろしくお願いたします。

◆田屋町内会長

戸川 春 義

傘寿になって二度目の町内会長、なんのなんのまだまだ役に立つ。

健康に気をつけて頑張ろう。趣味、魚釣り・写真・ビデオ撮り・ゲートボール

◆桃山町内会長

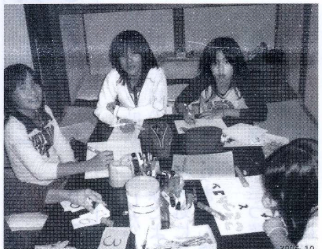
平岡 幸之介

先ず田屋集会所の活用を図りたい。各種の趣味の会や高齢者のための（長寿会も含め）、楽しむ場としての利用を考えている。例えばマージャン・



じとせんひろば

No.64 2007年(平成19年)1月1日 地御前地区コミュニティ推進協議会



子ども広場

地御前北二丁目 田村恵美子

「子ども広場」を作って四年目になります。きっかけは、野坂中学校周辺のごみ拾いをしていた、道路に座って話しかけていた子ども達に出会いました。その子ども達に声をかけている内に、もっと小さい時から地域がかかわれたらという思いで開きました。幸いにも地域の方が、空家を提供して協力してくださりました。学校が終わって家に帰っても、お家の人が誰もいなかったり、寂しかったら「子ども広場」にいらつしやいという趣旨で開いています。時間は午後四時三十分から七時ぐらいまでで、子ども達の様子に応じて調整しています。協力メンバーの方もおられてとても助かっています。宿題を持ってきく子どもや、

最近の新聞紙上では、子供の自殺や校長先生の自殺という記事が、毎日の様に伝えられています。伝染するのかもしれない。子供が自殺する事について私なりにいくつかの提案をしてみようと思います。いじめによる自殺する子は、集団にのめり込んで一人を受けていたのだから誰かが、誰かに打ち明けたらいい。弱虫がもたなくなっている様に思

広場にいるおばちゃん、トランプや将棋、オセロ、囲碁、カルタをしたり、学校のことをブツブツしゃべっていく子ども達、時には中学生も来ます。広場は、月・火・水・木曜日と開いています。来た子ども達には、給食を一口口に入れてやります。給食が珍しきものないと思えますが、給食目当てにやってくる子どももいます。こうして知り合った子ども達も、自転車や道路の真ん中に置いてたりするので注意をしないと、次のときはちやんと道路の端に留めてあります。大人が教えてやらないと、人の迷惑になるという事がわかりません。これからは、地御前の子の成長する姿を見続けたいと思います。

皆で楽しく生きよう
堀の町 中年おやじ

最近の新聞紙上では、子供の自殺や校長先生の自殺という記事が、毎日の様に伝えられています。伝染するのかもしれない。子供が自殺する事について私なりにいくつかの提案をしてみようと思います。いじめによる自殺する子は、集団にのめり込んで一人を受けていたのだから誰かが、誰かに打ち明けたらいい。弱虫がもたなくなっている様に思

私の愛する孫達が、あたたかひやかに育つ世の中になる様、努力していきたいものです。

願い
地御前北三丁目 小島 一彦

私の息子は転勤族で、現在守口市に住んでいます。二人の子供に恵まれました。私たちが夫婦には初孫で、三歳と一歳になる。愛らしくて全面的に受け入れられるふしぎな生物です。善悪のわが子に育つことを祈っています。昨日の世情は理不尽なことばかり、虐待、子殺し、生暴力による殺人、子供同士のいじめによる自殺等々、子供を取り囲む環境は、殺伐として空恐ろしい。大人の責任です。決まらねばならない問題を解決しなげばなりません。諸悪の根源は政治腐敗、拝金主義、無責任、モラルハザード、自信喪失だと思います。どの問題も大変なことです。まず、個人々々から始められる。自信回復から取り組もうではありません。責任ある言動と法律(道徳、倫理)を守ることに、自信につながる道と考えます。

犬の忘れ物始末記

林 武二

もう十年も前の事になるでしょう。犬の糞が道端に転がっていることが続くので、どうにかしたいけど、いい案がなかなか浮かばない。角を立てないよう穏やかに考え、まず、おかきの空き缶をひっくり返して台にせ、そこに犬のボンボンを載せて(よく見えるように)、そばに棒を立てて紙を貼り、こう書きました。「忘れ物です お持ち帰りください」

宮島ハイキング

安全で楽しいハイキングができて、とてもうれしかったです。ありがとうございました。

六年 角野 葉月
みなさんのおかげで、とても楽しいハイキングができました。地域の方もお話して楽しかったです。

過ぎ行く時間

地御前北 鎌田 勲

私が子供の頃、家には父兄の曾祖母が健在で、よく昔話を聞かせてくれた。明治の中頃までは、浅野の殿様がお通り、のときは沿道に座った人、待から米屋に転向した人

堀の町子ども会から
体育部のみなさまへ
みなさんのおかげで、楽しいハイキングができました。思い出ができました。ありがとうございました。

が多かったこと、日露戦争で知人が勲章を貰った話等。今から数えれば一四五年前の生れである。関が原の戦い(一六〇〇)から明治元年(一八六八)までの江戸時代二六八年は、この二倍に満たず、意外に短かったのではないかと錯覚してしまいううである。私の年齢差は七歳、八歳で他界するまでの十年間が共に生きた時間であった。この頃、自分の加齢に反比例して、昔の時間が次第に短くなっていくような気がしてならない。振り返る時間の単位が、子供の頃は一日であったり一週間であったりしていたのが、二十年、三十年前が「この前」の単位になっていた。たりして自分でも驚くことがある。今着ている服ですか?この前、えーと三十年位前に買ったような気がします。



新春懇談会
地域の皆様ふるってご参加ください
とき 一月七日(日) 十八時三十分
ところ 地御前公民館講堂
費 二〇〇〇円(当日)

した。しかし、数年前から健康上の都合で来日できなくなっていたので、年となく予想していましたがショックでした。イージョーリスニングの分野には、レイモンド・レー、ヘンリー・マンシーニ、その他多数の私の好きな楽団があります。彼のアレンジの絶妙さでは、彼の右に出る者はないと評価しています。彼の祖国フランスは、ファッション服飾産業、A380の航空宇宙産業、原子力産業

編集後記

あとがきがない、やめたのかとの声をいただいた。これからはこの欄を確保したい。第一面に「子どもを守りたい」との寄稿をまとめて掲載した。地御前の皆さんの今一番の関心事といえよう。今年は、当コ推協の発足三十周年を迎える。祝賀行事として、式典、講演会などを検討中。廿日市市も市制施行二十周年を迎えます。十一月十三日、中山薫様(市議会議員・コ推協常任理事)がお亡くなりになりました。謹んでおくやみ申し上げます。前号訂正(第一面下段)
正 顧問 平松 和枝
正 理事 平岡幸之介

自分を犠牲にして列車を守った 集戦闘機の将校(下) 歴史研究家 森 重昭



私はこの
英雄的行為
を後世に伝
えようと思
う。九州出身の

桜井大尉を探し続けました。遺族が年金を受け取っている可能性があったので、厚生省に問い合わせをしたが、プライバシーを楯に教えてもらえませんでした。私は岩原先生や中谷重枝さんから聞いた話をまとめ、備忘録を作りました。これが役に立ちました。備忘録を見た宝塚に住む高木晃治氏が同じような研究をされており、桜井ではなく桜木大尉ではないかと教えてくださいました。同時に撃墜ではなく撃墜したということも判りました。地御前の人々が言っていたのは岩国飛行場を突進したのではなく、山口県の防府にあった小月飛行場を突進していました。

桜木機とともう一機の味方機が、地御前上空に来ていたのです。地御前に到着前にそれぞれが米軍機二機ずつ撃墜していました。桜木機の同僚機も米軍機に撃墜されましたが、搭乗員はパラシュートをつけて

いたため助かりました。これは日本側の撃墜記録によるもので、もう一機が何処に落ちたのか書いてありませんでした。

地御前には爆弾が二つ落ちましたが、被害があったのは中谷家だけで、他の一発は人家が無いところに落ちたため被害は全くありませんでした。中谷家は五人の家族が殺された上、奥様は重傷を負い、治療費はすべて自己負担を強いられました。さらに爆弾で家が壊滅、生活手段のすべてを一挙に失いました。

雪校さんは途方にくれたといえます。家は立てなおせば元通りの生活ができますが、死んだ人を生か返させることはできません。私が雪校さんに会って話を聞いたのは戦後あかなりたつてからですが、あの辛い経験を昨日の出来事のように鮮明に覚えていて、それがトラウマ(精神的外傷)になっていました。いまでも五人の死を、どうしても容認できないといいました。「自分は何も悪いことをしてない。それなのに何故うちだけがこんな目にあわなければならないのか」と詰めて寄られたときに返す言葉もありませんでした。

しばらく沈黙が続き、やがて息を取り直した雪校さんは、四人の子供を失ったとは言い九人の子宝に恵まれていたためその中の一人と幸せに暮らしていることを私に語りました。私は死んだ子供の分まで生きているのよ」という言葉は平和の大切さを象徴するものです。また「戦後もあの日のことを一日も忘れたことはない」と言い切りました。彼女の脳裏には、子供が何年たつても生きたまま存在していたのです。それはどの深い悲しみと苦悩を引きずって、戦後を生き続けた人の証言を重く受け止めた、地御前の歴史に刻んで欲しいと思います。

私は雪校さんが、夫の春司さんから聞いていた米軍に撃墜された日本機のパイロットの遺族を探そうと決意しました。名前は、高木晃治氏の調査で桜木大尉とということではわかっていました。明野飛行学校の教官でしたが九州の何処に遺族がいるのかわかりません。妻子がいたのか独身だったのかも不明です。

私は遺族年金に目をつけました。厚生省に問い合わせたところ、桜井大尉の遺族は

個人プライバシーを楯に返事を拒否してしまいました。万事休す。これで万策つくたと思いました。

桜木大尉 座っている人

しかし、ここで諦めては勇気だつた桜木大尉の英雄的行為を遺族に知らせる機会を永久に訪れません。次の一手をどうするか考えました。その結果、新聞で遺族を探すことを思いついたのです。しかし、新聞が承知してくれなかろうかわかりません。九州のどこの新聞社に頼んだらよいかもわかりません。それでも根気よく調べた結果どうやら大分県出身らしいことがわかりました。思い切つて大分合同新聞社に電話して、私の思いを話したところ、考えてみようといつてくれました。ここでも私の備忘録が役に立ち、記事の方はそれを基に、見事な記事を書いて新聞に掲載してくれました。夕刊だったのですが、すさまじい反響がありました。桜木大尉の情報が一八件も寄せられたのです。桜木大尉の遺族は何処に?



という見出しが、地元の人々にアヒルしたものでしょう。なんと桜木大尉のお嬢さん、上官、中学時代の同級生、郷里の人々等々が、名乗り出てくれました。そして異口同音に話したことは、桜木大尉(戦死後少佐)が正義感の強い立派な人だつたということです。桜木家の先祖は、無理やり天皇になろうとした遺族を命がけで阻止した和氣清麻呂の子孫でした。正義感が強いはずでした。

新しい事実もわかりました。奥様は大尉の出撃時六ヶ月の身重だつたそうです。八月に子供が生まれました。女の子で、それが今回連絡してくれた石川(旧姓桜木)弥生さんです。彼女は夢の中だけだつた父が、新聞のおかげではつきりとイメージが出来、涙がこぼれました。父を誇りに思っています。手紙を書く

桜木大尉は当日は非番でした。三少佐に申し出て、小月を出撃していきました。三月十九日、宮島上空にはグラマンヘルキヤットが全部で十数機いました。大尉の方もはじめは十二機で、二機になっていました。桜木機が宮島の上空から長浜の海上に墜落し、壮烈な戦

死を遂げたのは、昭和二十年三月十九日、午前九時十四分のことでした。現在、桜木家の奥津城(彦)は、大分県国東半島の静かな山村にあります。郷里は大自然に包まれた素朴な農村ですが、彼の才能を惜しんだ二両親が家族ぐるみで大分に引越して、大分中学に進学させていたのです。彼は文武に秀でた人で、大分県剣道大会で優勝したほか、戦機は大車輪、逆車輪が出来、英語の弁論大会で入賞したこともあります。中学五年間は級長か副級長で、クラスでは

いつも首席でした。桜木大尉は名前通り、桜のように本土防衛の華と散った惜しみても余りある武人でした。



トミ・ハリス中尉

最後に桜木機を撃墜したアメリカ兵の話を書いて終わりたいと思います。私の友人で

大阪の宝塚在住の高木晃治氏はアメリカの戦史研究家ベントリー境田氏と協力して、日米の空中戦について研究されており、氏は私の宮島上空での空中戦の話を興味を抱き、ベントリー境田に連絡してくれました。驚いたことにベントリー境田は、四十五歳まで五日市に住んでおり、彼のお母さんが宮島の空中戦を見ていたのです。ベントリーは早速アメリカ軍の戦闘記録からアメリカ側の戦闘機の行動、特に三月十九日の宮島上空での詳細なる報告書を見つけ、米軍

の飛行機と搭乗者を割り出してくれたのです。アメリカは日本と違い、戦闘記録を良いも悪いもすべてを正直に記録して、各地のレコードセンタに残しています。その記録は誰でも見ることが出来るのです。ベントリーは桜木機を打ち落とした米軍機の搭乗員がトミ・ハリス中尉であることを突き止めてくれました。桜木大尉の遺族に手紙をくれる労もつけてくれました。

手紙の内容は、プライバシーにかかわることでは公表できませんが、私が高木氏とやり取りした電話の内容から、おそろく次のようなものではなかつたかと想像しています。

「桜木大尉のお嬢様へ

お嬢様へ

私は、一九四五年三月十九日早朝、九州沖の米空母母一ネットより出撃した十六機のグラマンヘルキヤットの級長で、トミ・ハリス中尉と申します。当日、我々戦闘機部隊は、爆弾を搭載して出撃しました。目標は長門湾に集結していた日本艦艇で、これらを撃沈することを使命としていたのです。我々全機が瀬戸内海を東進し、宮島上空を目指して飛行を続けていたところ、宮島あたりで上空で少数の日本機が待ち伏せしていたのです。それが貴方のご主人であり、お父上

の桜木機とともう一機の飛行機でした。私は直ちに十六機のうち八機に、この日本機を攻撃するように命じ、他を兵に向かわせました。

我々は空中戦に突入しました。桜木機は、私が太平洋戦争中に遭遇したなかで、最も手ごわい相手でした。巴戦を何度も繰り返して、もう少しでこちらが撃たれる寸前に、私の弾が桜木機のエンジンに当たったのです。

桜木大尉も私も戦闘機のパイロットとして敵を撃墜するという、当然ならなければならないことを遂行したのです。結果論ですが、私は桜木大尉が戦死されたことに深甚なる弔意を表し、心よりご冥福をお祈りする次第です。

元米軍パイロット トミ・ハリス

中山薫さんを悼んで

会長 相良 宏三

昨年、我々は地御前地区の非常に大切な方を失いました。地区で一人の現職市議会議員であった中山薫氏が七十歳で急逝されたことは、残念の極みと言えます。



在りし日の中山薫さん

氏は若い時期から地元のお世話をすることを厭わず、青

年団・商工会・食糧衛生協会・交通安全協会・PTAその他の役職を歴任されました。その識見と手腕を高く認めて、社会教育委員・教育委員などの要職も依頼されました。当コ推助にも設立時から積極的に参加され、運営面でも度々建設的な意見をいただいて来りました。

昭和六十一年の町議会議員選挙の際、当地区からの議員お二人がそろって引退なさることとなり、氏の力量を認めるとわかったが、氏を引退させようとする議員の後継者としてではなく、ぜひ議会に出てほしい人として、多くの人に支持されました。選挙では「誠実と熱意と行動力」をモットーに掲げ、大変多くの人に認め

られ、新人ながらトップ当選という快挙をなし遂げられました。

それ以後二十二年間継続して議員活動をされ、二年間は議長としても活躍されました。人に対して正面から向き合う誠実さと、議会では熱い議論を交わすことから、市役所幹部から「やらかし」のニックネームをもらうほどの熱意と、問題がある現場や相手に出向いて解決に努力する行動力が、多くの人の信頼を得たものと思います。

任期を二年余り残しての突然の発病に、氏は悔しうに残念な気持ちであつたことと云えます。地域のために一生を尽くしたとも言える中山氏の冥福を祈ります。

「藤川 海はつと」

昨年十月十五日、廿日市市佐伯の浅原山中で、「森・川・海はひとつ」と、漁業者・林業者・市民が一緒になつた、森づくりの催しが行われた。(写真提供 井上良孝さん)

廿日市市佐伯の浅原山中で、森づくりの催しが行われた。

